

”下水道きれいな水へのかえりみち“

下水道が支える 私たちの生活。

毎年巨額の予算で整備が進められている下水道。今年も約六十三億円の予算を投じ、来年三月末の秋田市の下水道普及率は約七十三%になる見込みです。

見えない所で働く 縁の下の力持ち

日常生活や工場から出る汚れた水をきれいにして自然に返すため、下水道は休みなく働いています。



8月31日に秋田駅前で開催された下水道まつり。有機物分解に活躍する微生物を観察

下の図のように、家庭や工場から出た汚水は、市内に網の目のよ

うに整備された下水道管を通り終末処理場に集められています。処理場では、微生物の力も借りて汚水をきれいにし、海や川に放流し、大切な自然環境を守っています。

また、道路や住宅地に降った雨は、雨水ますから下水道管を通って川に放流されるようになっていて、街を浸水などの災害から守っています。

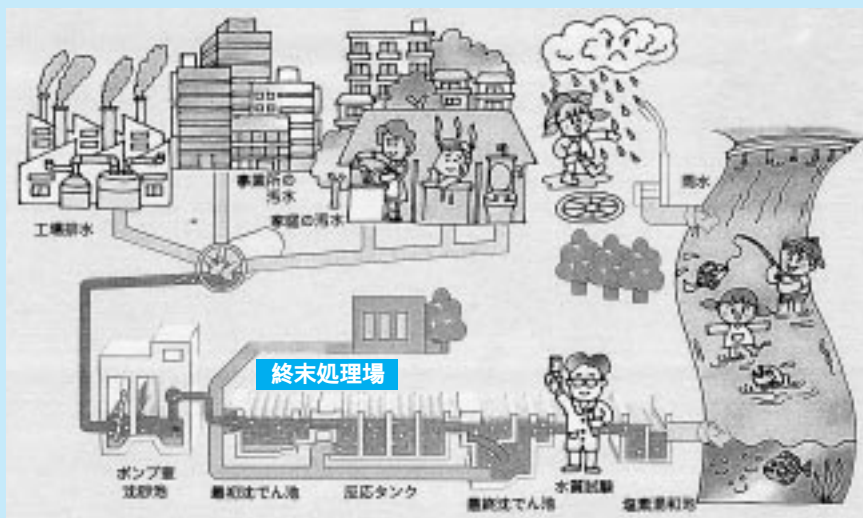
下水道使用料と受益者負担金は大切な財源

衛生的で快適な生活を縁の下で支える下水道。施設の建設や水管の維持管理などにかかった費用は、平成十三年度で約百四十七億円でした。

これらの費用は、税金や市債な

どのほか、みなさんから納めていただく下水道使用料や受益者負担金などで賄われています。ちなみに受益者負担金は、下水道が整備される地域とそうでない地域に不公平が生じないように、下水道が整備される地域の土地所有者などから、建設費の一部を負担していたりもしています。

問い合わせ 下水道総務課 ☎(864)1411



下水がきれいな水になるまでの流れ



ある家族の再就職奮闘記

あきたさん家の物語

最終回 事業計画完成！

前 に勤めていた会社の仲間たちと一緒に、かつての知識や経験をいかし、会社を起そうと考えた一郎さん。

市が創業を支援するために整備中の「チャレンジオフィスあきた」に入居できれば、会社を起すためのいろいろなアドバイスが受けられると聞き、ますますやる気が出てきました。

市の担当者から、入居には将来性のある事業計画が必要との説明を受け、早速勉強開始です。

起 業に関する雑誌や本を読み、セミナーにも参加。会社経営者に会って、商売の醍醐味や苦労話を聞いたりもしました。

「会社を起すと言っても並大抵なことじゃないなあ」。一郎さんの実感です。それでも一生懸命に頑張る姿に、「このころ生き生きしてるじゃない」と声をかける妻・花子さんでした。

申 し込み締切りの九月末日ぎりぎりに、ようやく事業計画が完成し、いよいよ「チャレンジオフィスあきた」に入居の申し込み。

市工業労政課に事業計画書を添えて申込書を提出しました。入居が決定するには、一次審査、二次審査を通過しなければなりません。

会社時代に培った半導体に関わる機械製造のノウハウをいかし、仲間たちと話し合いを重ねて作り上げた事業計画。持てる力は出きった一郎さんには、結果がどうであれこの経験は無